

氏名 早 原 敏 之

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 乙 第 859 号

学 位 授 与 の 日 付 昭和52年 6 月 30 日

学 位 授 与 の 要 件 博士の学位論文提出者
(学位規則第 5 条第 2 項該当)

学 位 論 文 題 目 各種神経系疾患における髄液免疫グロブリンE (IgE) 動態

論 文 審 査 委 員 教授 高 坂 睦 年 教授 大 藤 眞 教授 森 昭 胤

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Radioimmunoassay 法によって、各種神経系疾患患者の髄液IgEを測定し、検討した。

- (1) 十分な髄液濃縮を行えば、ほぼ全例で IgE の定量可能と思われた。
- (2) 正常対照群の IgE 値は 0.03 - 0.71 U/ml (平均: 0.28 U/ml) であり, 0.8 U/ml を正常上限とみなし得た。
- (3) IgE の髄液／血清比は 0.08 - 0.12 % であり, blood-CSF-brain-barrier における透過性は, IgA と IgM の値の中間に位置し, 夫々の分子量に反比例した。
- (4) 髄液 IgE は, 髄液総蛋白量や IgG, IgA, IgM の増加と相伴って増加する傾向を示したが, IgD とは相関しなかった。
- (5) 中枢神経系炎症性疾患, 多発性根神経炎および髄液通過障害を有する脊椎・脊髄疾患で髄液 IgE が高値を示した。これらの疾患では他成分の増加を相伴っていた。
- (6) 多発性硬化症では 15 例中 3 例しか増加していず, 平均値も正常であった。病期・推定病巣部位・重症度などとの関連は見い出せなかった。又, IgE 増加例は他成分の増加を伴っていなかった。このことは多発性硬化症においては, 炎症性疾患や髄液通過障害における IgE 増加とは異なった機序の可能性を示した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は従来その量が少いことによって測定困難であった髄液中免疫グロブリンE (IgE) を, 髄液濃縮法によって測定可能にした上, 種々の神経系疾患について測定し, 今後のこの方面の研究に対して多くの示唆を提供した価値あるものであり, 医学博士の称号を受ける資格があることを認める。